

原発の危険と隣り合わせの生活を実感

枚方革新懇の「原発と一滴文庫」ツアー

7月16日開催された「一滴文庫と美浜原発ツアー」に、約50人が参加しました。

若州一滴文庫見学

福井県おおい町にある作家・水上勉氏の「若州一滴文庫」は、水上氏が主宰されている若州人形座の拠点として、また、宗教・美術・文学などの資料を展示する施設として建設された総合文学館です。

水上氏に関する資料などを展示した本館、竹人形館、水上氏の蔵書二万冊を収蔵した図書館などを見学しました。

「美浜原発」見学

その後、美浜町にある



「働いている方の健康管理はどうしているのですか」「など、予定の時間が過ぎても次々と質問が出されました。所長からは「福島第一原発事故をつけて、いま対策を行っている」と、

厚労省課長通達は違法、違法で時代遅れ!

枚方・生活保護訴訟から「障害者の権利」学習会開かれる

佐藤キヨ子さんを支援する会・枚方交野生健会主催で、7月16日「枚方・生活保護自動車保有訴訟から『障害者の権利』を考える学習会」が開かれました。

「障害者の自動車保有は憲法上の権利」と題して、弁護団の青木佳史弁護士が講演。青木氏は、障害があっても、日常生活・社会生活を送ることができる社会環境を整備する、必要な支援・道具をつかって、社会生活をおくるまでのサポートラインを障害のない人と一緒にすることが大切。

美浜原発に移動。風光明媚な海岸線の先に、美浜原発が姿を現しました。すぐそばに海水浴場やたくさんの船宿がある風景に怖さを感じます。

原発の建物には近づけない中、美浜原子力PRセンターで、関西電力美浜原発の所長から説明を受け、「原発PRビデオ」を視聴しました。

その後、日本共産党福井県議・佐藤正雄氏が

「関西電力の建物内で、原発反対の話をするのは初めて」と述べながらこの間、明らかに変わった原発の問題点を、資料を示しながら説明。その後、所長に対する質疑応答の時間がもたれました。

参加者から「地震の対策、津波の対策はどうなっているのですか」「美浜原発で働いている正社員と、非正規社員の方はどれくらいいるのですか」「働いている方の健康管理はどのようにしているのですか」など、予定の時間が過ぎても次々と質問が出されました。

所長からは「福島第一原発事故をつけて、いま対策を行っている」と、

昭和38年の車保有を制限した厚生労働省課長通達は、機会均等原則(憲法13・14条)、移動の自由(憲法22条)、障害者権利条約、障害者基本法に違反し、違法・違憲であり時代遅れである、もっと大きな声を出し変えていこうと話されました。

参加者から「子どもが障害者で病院、買い物などの日常生活に必要な講演を聴いてこの裁判は絶対勝つ」など8人から発言がありました。支援する会から、第7回口頭弁論への百人の傍聴、署名の推進、佐藤八

ソフの普及などの訴えがあり、最後に佐藤キヨ子さんが「今まで虐められても泣いたことがありませんでしたが、青木弁護士の前回の口頭弁論でのお話、今日のお話で泣いてしまいました。同じ障害者のために頑張りたい。そして、決めたる！」(裁判に勝利する)「と、元気にお礼と決意を語りました。

みとひ瀬広



員は450名、協力会社から1千名働いている」など説明がありました。

PR館には、実物大の原子炉の模型、原子力発電の仕組みなどがあり、複雑な原子炉の構造を見ることができました。

このツアーでは、バスで、大飯原発の近くを通りました。その日、大飯原発では、緊急炉心冷却装置のタンクにトラブルが発生し、手で緊急停止させていることが発表されていました。原発の危険と隣り合わせで生活していることを実感させられるツアーとなりました。

枚方・生活保護自動車保有訴訟

第7回口頭弁論

7月29日(金)午前10時半～
大阪地裁202法廷

集合は、午前10時15分 地裁ロビー
裁判終了後、弁護士会館で「報告集会」を行います。

多くの方の傍聴をお願いします。

おめでとう活動日記

美浜原発・若州一滴文庫ツアーに参加



ク」の圧力が制限値を一時下回るトラブルを起し手動停止。このニュースを聞いて驚きました。

枚方革新懇主催でおこなわれた福井県の美浜原発・若州一滴文庫ツアーに参加。福井県おおい町にある一滴文庫を見学している時間に、大飯原発1号機が原子炉格納容器内に「蓄圧タンク」

福井県おおい町にある一滴文庫を見学している時間に、大飯原発1号機が原子炉格納容器内に「蓄圧タンク」

ひらかた高齢者保健福祉計画(第5期)策定部会

8月1日(月)午後2時～

ラポールひらかた研修室
介護の計画を決める審議会です。
多くの傍聴をお願いします。



